

G8環境大臣会合の結果について

平成19年4月12日
環 境 省

3月15日から17日にかけて、ポツダム（ドイツ）で開催されたG8環境大臣会合に出席。

「気候変動とエネルギー」及び「生物多様性」について議論。

1. 今回の会合では、G8の環境担当大臣のほか、インドや中国などの主要途上国の環境担当大臣、気候変動枠組み条約などの関係国際機関の長も参加して、6月のハイリゲンダム・サミットに向けた率直な意見交換を実施。
2. 「気候変動」の議論においては、以下の点について概ね見解が一致。
 - ① 温暖化対策と持続可能な開発や経済成長を同時に取り上げることが必要。
 - ② 排出抑制と並んで適応対策を進めることが必要。
 - ③ 先進国、途上国の排出抑制に向けた更なる取組の強化が必要。
 - ④ 途上国における森林伐採の削減の取組等の対策を正当に評価し、国際的な支援措置を検討することが必要。
 - ⑤ 各国それぞれの独自の取組だけでなく、国際的な促進のための措置が必要不可欠、特に、技術移転の促進のためのインセンティブ作りが重要。

3. 「生物多様性」の議論においては、地球規模での生物多様性の劣化についての認識を各国間で共有。また、2010年までに生物多様性の減少をくい止めるという国際目標の達成に向け、今後、各国が相互協力を強化していくことを確認。
4. また、米国、中国、ドイツ、英国、欧州委員会等と個別会談を行い、気候変動問題等について、長期目標の設定、次期枠組みの構築などについて意見交換を実施。
5. 米国に対しては、京都議定書への復帰を含む建設的な対応を促したが、先方は、次期枠組みには触れず、米国のアプローチは技術を中心とする削減効果が高いものであること、また、自動車の燃費効率改善についても対策を強化したことについて発言。
6. 中国からは、エネルギー効率の改善など独自の国内対策を強化していること、また、CDMにも積極的に取り組むなど、条約や議定書に基づく取組を積極的に推進していることを説明。また、日中協力の強化も要請。

G8 環境大臣会合出席者一覧
2007年3月15日-17日、於ポツダム（ドイツ）

1. G8 環境担当大臣等

日本	若林正俊環境大臣
カナダ	ベアード環境大臣
フランス	オラン エコロジー・持続可能開発大臣
ドイツ	ガブリエル環境・自然保護・原子力安全大臣
イタリア	スカーニオ環境・国土保全大臣
ロシア	アレクサンドル天然資源省環境保護政策局長
英国	ミリバンド環境・食料・農村大臣
米国	ジョンソン環境保護庁長官

2. 主要途上国環境担当大臣等

ブラジル	フェルナンド政府顧問
中国	解 国家発展改革委員会副主任
インド	ラジャ環境・森林大臣
メキシコ	ケサダ環境・天然資源大臣
南アフリカ	スカルクヴェイク環境・観光大臣

3. 国際機関等

欧州委員会（EC）	ディマス環境担当委員
IUCN	レフェヴル事務局長
UNEP	シュタイナー事務局長
UNFCCC	デ・ボア事務局長

気候変動に関する外交スケジュール

G8プロセス

2005年のグレンイーグルズ・サミットで気候変動が主要議題。
(サミットには、中国、インド、ブラジル、メキシコ、南アの新興経済諸国5カ国も参加。)

気候変動枠組条約関係

2007年

3月 G8環境大臣会合(ドイツ)

(気候変動・生物多様性が議題)

3月 欧州理事会
(2020年の削減目標を採択)

6月 G8 ドイツサミット
(ハイリゲンダム)

APP政策実施委員会
(年央、東京)

秋 G20対話(ドイツ)

(2005年の英国サミットでG8及び中国・インド等、主要20カ国及び世銀・IEAからなる気候変動に関する対話を開始)

APP閣僚級会合
(年後半、インド)

11月 最新の科学的知見:
IPCC第4次評価報告書公表

12月 気候変動枠組条約締約国会議(COP13、インドネシア)

2008年

春 G20対話(日本)

2008年~2012年
京都議定書 第一約束期間

春 G8環境大臣会合(日本)

夏 G8 日本サミット

(G20対話の報告・まとめ その他)

12月 気候変動枠組条約締約国会議
(COP14、(ポーランド予定))